

さらに自分を高めるために



新理事

山岸 広明

(居宅介護支援事業所つばさ天童)

居宅介護支援事業所つばさ天童でケアマネジャーをしております山岸広明と申します。ジャルサ山形の理事就任という事で、どこまで自分を高められるか分かりませんが、精一杯頑張らせて頂きますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

私はケアマネジャーとして、様々な疾患により日常生活に困っている方々と出会ってきました。ALS・高次機能障害・パーキンソン病・バージャー病・統合失調症・うつ病・認知症・後縦靱帯骨化症・関節リウマチ・脳血管障害による後遺症など、病気によって今までの過ごしてきた生活が変わってしまった方、経済的に困窮され生活に悩まれている方、病気に

対する周囲の理解が得られず困っている方と、抱えている問題は十人十色です。

ケアマネジメントは介護保険のサービスと利用者をコーディネートし、日常生活での不安解決の手助けを行う仕事です。しかし、介護保険も万全ではなく、制度に救われる人もいれば、報われない人もあります。特に、第2号被保険者と呼ばれる40歳から64歳までの特定の病気を持っている方が、介護保険を活用する際に高齢者向けサービスとの折り合いで悩んでしまうケースが見られます。それを補う為には、ケアマネジメント以外にもソーシャルワークという視点を持ち、利用者が社会から孤立してしまわないようにフォローしていく事が大切だと考えております。その考えを形にする為に、これまで様々な活動を行ってきましたが、その一つに「山形ALSを考える会」があります。山形から何かを発信していきたいという想いを持ち、担当させて頂いているALS患者様と一緒に始めました。毎年6月21日は世界ALSデーという事で、昨年の6月21日には、一人でも多くの方にALSという疾患について周知する為

にイオンモール天童にて啓蒙活動を行いました。ケアマネジメントが生活を支援する仕組みであるとするならば、ソーシャルワークは人の心を動かす取り組みなのではないかと思えます。こうした取り組みによって人と人とが結ばれ、新しい何かを生み出す可能性を広げるのだと勉強する事が出来ました。

昨年の11月には、Jリーグで活躍しているモンテディオ山形より試合観戦の招待を頂き、一緒に観戦する事が出来ました。山形ALSを考える会の昨年度のテーマは「リスタート」でしたが、20年前に天童市からALSの啓蒙活動を始めたALS協会より伺い、新たな気持ちで活動をスタートし、一人でも多くの人にALSの事を周知していく事を目的とし取り組んできました。今年度は「レボリューション」というテーマを掲げ、ALS患者様のよりよい生活の向上を目指し、制度と向き合いながら行政に声を上げていく事を目的としております。

ジャルサ山形の理事就任は、山形ALSを考える会の今年度のテーマを達成する上でもとても重要な事であり、自分自

身の成長の為にも大変ありがたい機会があります。ケアマネジャーとしての仕事をしながら、今の自分が不足している点を確認し、ALSの患者様や担当している利用者様の為にも、自分を磨きあげられるよう努めていきたいと思っております。一人の声が誰かに届き、声が集まりそれは地域の声となり、それが広がり社会の声となる。その声の世界に届く時、ALSは治る病気となっている事を願っ

ています。そして、その一人の声になれるように頑張りたいと思います。